

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

東浦町地域公共交通会議 (東浦町)

2007年10月1日設置

2022年3月28日 東浦町地域公共交通計画策定
(計画期間：2022年4月～2027年3月)

2024年6月28日 東浦町地域公共交通計画改定
(計画期間：2022年4月～2029年9月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

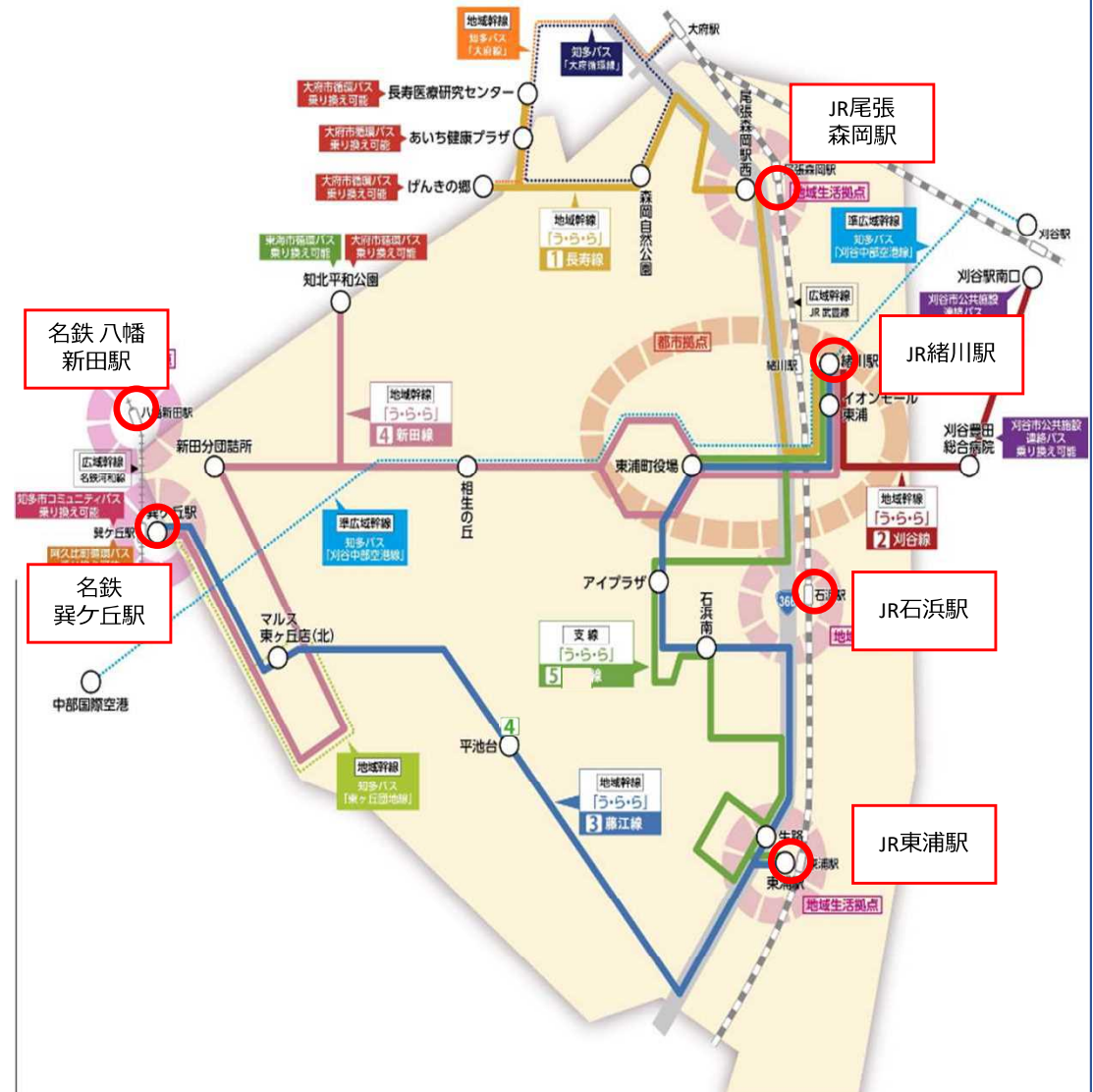
- ・地域間幹線系統確保維持国庫補助金
- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・利便増進計画推進事業

(1)地域の特性と公共交通

人口	48,050人 (2025年3月末：住民登録)
特性	東側と西側に主要な市街地が形成されたベッドタウン
公共交通	- 東部はJR武豊線、西部の町境付近は名鉄河和線が南北に運行 - その間に広がる鉄道空白地域を繋ぐように町運行バス「う・ら・ら」が運行 - 北部の森岡台とJR大府駅を結ぶ知多バス「大府線」、東ヶ丘団地と名鉄巽ヶ丘駅を結ぶ「東ヶ丘団地線」が運行

(2)東浦町の公共交通が目指す姿

移動しやすく交流を生む
「おでかけ」環境の実現

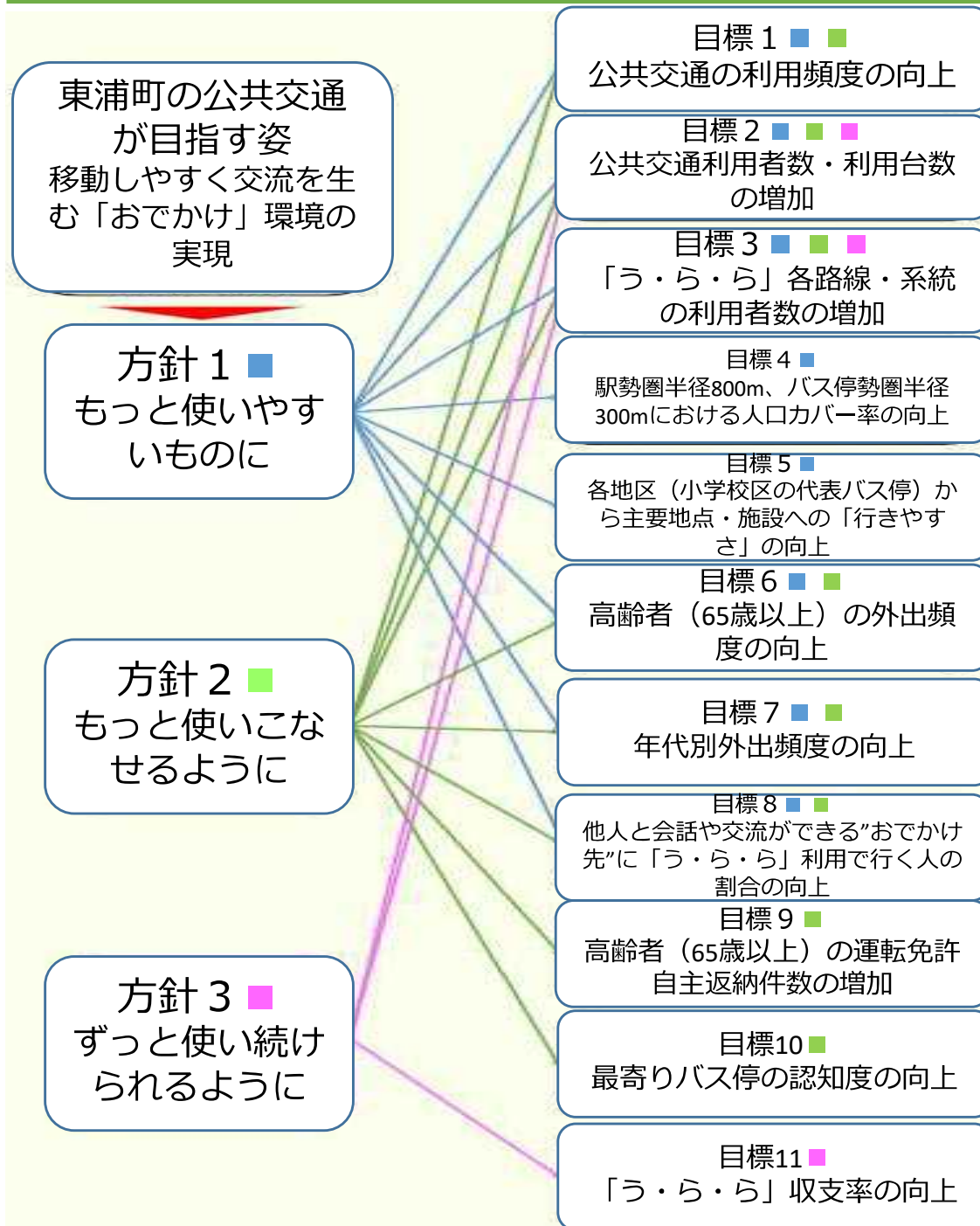


(3)計画の基本方針

1	「もっと使いやすいものに」 主な目的地に行きやすい公共交通サービスの確保や、わかりやすく、使いやすい環境を整える取り組みを推進する。
2	「もっと使いこなせるように」 公共交通の周知・体験会等の機会を拡充し、住民、地域にとって、公共交通が身近になることで、活発な交流を促す取り組みを推進する。
3	「ずっと使い続けられるように」 公共交通を将来にわたって確保・維持し、住民生活を支える地域の足を守る取り組みを推進する。

2024年10月以降の概略路線図

(4)基本方針と目標



(5)計画の目標を達成するために行う施策

施策1	「既存路線の利便性向上」
施策2	「新たな公共交通の導入検討」
施策3	「鉄道駅の賑わい創出」
施策4	「公共交通の運賃支払い方法の多様化」
施策5	「情報発信で不安を解消」
施策6	「MM等の手法を用いて人々の意欲や行動を変える」
施策7	「地域と協力して、公共交通が利用しやすくなるような状況をつくる」
施策8	「部署横断的に役場一丸となって、公共交通が利用しやすくなるように取り組む」

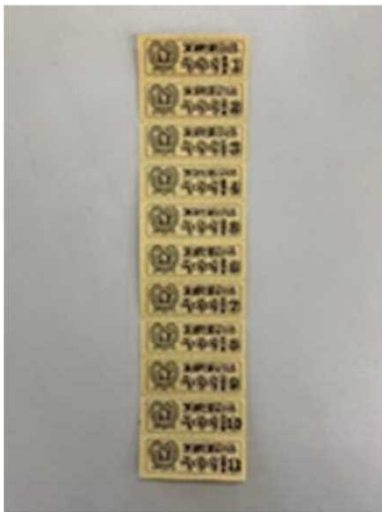
※「計画の目標を達成するために行う施策」とは、本計画の「基本方針」「目標」に基づき、実施する取り組みのこと。上記のとおり、大きく分けて「8つの施策」を設定した。

1. 取組名称	「う・ら・ら」、路線バスの経路及びダイヤの見直し
2. 取組の概要	下記を中心とする、「う・ら・ら」の経路及びダイヤの見直しを実施した。 ①環状線・東浦高校線（於大公園南経由）、長寿医療研究センター直行便を統廃合し、藤江線、新田線、高校線を新設する。★（幹線・フィーダー補助受給系統） ②藤江線、新田線を名鉄巽ヶ丘駅に乗り入れ、町内全地域から巽ヶ丘駅へ行けるようにする。★（幹線・フィーダー補助受給系統） ③「う・ら・ら」各路線の乗継利便性及び利用者層や時間帯ごとのニーズを意識したダイヤを設定する。 ④知多バス「東ヶ丘団地線」の停留所や運賃を「う・ら・ら」に合わせる。 ⑤ICカード決済の導入。
3. 実施主体	協議会、町、バス事業者
4. 実施日	2024年10月1日
5. 効果	①名鉄巽ヶ丘駅へのアクセス確保。 ②東ヶ丘団地の運賃体系の統合と運行、ダイヤの充実。 ③既存の輸送資源を利用実態や需要に合わせて再配分を行い、持続可能な交通体系を維持しつつ、乗換の改善等総合的な利便性の維持・向上を図る。
6. 実施結果及び考察	2024年度（2024年10月から2025年9月）の利用者数は247,973人であり、2023年度（2023年10月から2024年9月）の利用者数260,878人と比べると12,905人減少している。これは、ダイヤ改正に伴い、発着・乗継時間の変更により、ダイヤ改正前に利用していた便がなくなったことなどを理由に、利用者が「う・ら・ら」から一定数離れてしまっているためだと考えられる。今後の利用者数の推移を注視するとともに、「う・ら・ら」がダイヤ改正により便利になった点の周知を継続していく。



2024年10月1日出発式（巽ヶ丘駅）

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
回数券の共通利用	民間バス・タクシーの精算時に、「う・ら・ら」の回数券1枚につき料金から100円控除するもの。	2023年度の利用実績1,119枚 2024年度の利用実績1,590枚	知多バス東ヶ丘団地線の停留所や運賃を「う・ら・ら」に合わせ、利便性を向上したことで利用が増加。
地域に出向いた乗り方教室の開催（利便増進計画推進事業）	高齢者や子どもを対象に、時刻表の読み方やバスの乗り方に関する勉強会であるバスの乗り方教室を実施。この際に実車を用いて、運賃の支払い方や乗車時のマナー等を学ぶ。	地域の高齢者が集うサロン、保育園、産業まつり等で計12回開催。	サロンのメンバーで「う・ら・ら」を利用して出かけるなどの副次的な効果があった。



回数券



東ヶ丘サロン乗り方教室

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

6

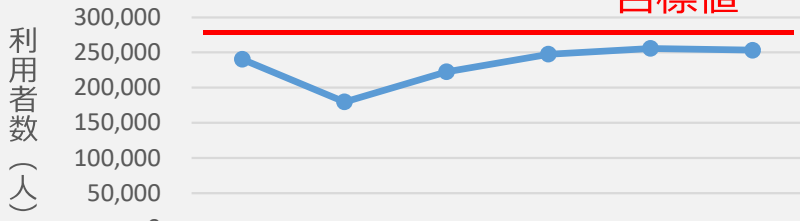
取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
公共交通パンフレットの作成	公共交通の利用促進を目的に、バス・タクシーの乗り方や地域のおでかけスポット等を紹介するパンフレットを発行。	2024年10月実施のダイヤ改正を受けて、2025年3月31日に第二版を発行し、2025年4月号の広報に同封し配布。	お出かけスポットを掲載することで、公共交通を利用してでかけてみたいという声が多い。
「う・ら・ら」の路線図・時刻表の発行（利便増進計画推進事業）	2024年10月1日実施のダイヤ改正を反映した時刻表を作成し、全戸配布。	町内全戸約2万世帯に広報と同時配布。	配布のみで効果検証はできていないため、今後の課題として効果検証の方法を検討していく。
町職員向け路線図・時刻表の見方、及び経路検索講習会の開催	新規採用職員を対象に、地域公共交通について研修を行った。	2024年度新規採用職員約10名を対象に実施。	窓口対応の多い課の職員も、住民に「う・ら・ら」の利用について説明している。



公共交通パンフレット



路線図・時刻表

目標	実績値	達成状況	考察														
目標2 公共交通利用者数・ 利用台数の増加 ■「う・ら・ら」 179,539人（2020年 度） →265,000人（2029年 9月）	■「う・ら・ら」 253,152人／年（2024年度） 対目標値 △11,848人 町運行バス「う・ら・ら」 利用者数 の推移（年度別） <table><tr><th></th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th><th>2023</th><th>2024</th></tr><tr><td>利用者数</td><td>240,255</td><td>179,539</td><td>222,272</td><td>247,412</td><td>255,658</td><td>253,152</td></tr></table>		2019	2020	2021	2022	2023	2024	利用者数	240,255	179,539	222,272	247,412	255,658	253,152	×未達成	•2024年度と2023年度の比較から、2024年度は2,506人減（1%減）となっている。これは、2024年10月に実施したダイヤ改正に伴い、発着・乗継時間の変更により、ダイヤ改正前に利用していた便がなくなったことなどを理由に、利用者が「う・ら・ら」から一定数離れてしまっていると考えられる。 •全体としては、コロナ禍である2020年度以降利用者は増加傾向にある。これは、コロナ禍の落ち着きとともに外出機会が増加したところに、「う・ら・ら」の存在や利用方法等が浸透した等、周知・利用促進策等が一定の効果を上げたものによると推測される。目標値達成のため、2024年10月のダイヤ改正で「う・ら・ら」の便利になった点を積極的に周知していきたい。
	2019	2020	2021	2022	2023	2024											
利用者数	240,255	179,539	222,272	247,412	255,658	253,152											

計画目標・評価指標・目標値		達成状況					考察
		2020	2021	2022	2023	2024	
目標2 公共交通利用者数・利用台数の増加	知多バス「東ヶ丘団地線」利用者数 36,200人	31,722人	28,582人	31,783人	36,107人	41,222人	2024年10月から知多バス東ヶ丘団地線の停留所や運賃を「う・ら・ら」に合わせ、利便性を向上したことで利用者数は増加したと思われる。
	知多バス「刈谷中部空港線」利用者数 55,000人	1,775人	2,399人	10,362人	18,532人	22,033人	コロナ禍の影響により2020年度に利用が大幅に減少。 コロナ禍の落ち着きとともに2022年度より回復に転じているがコロナ前の水準に至っておらず、目標値を達成できず。
目標11 「う・ら・ら」収支率の向上	収支率 16.6%	9.6%	10.4%	12.0%	12.5%	11.5%	ドライバー不足や燃料費の高騰等によって運行委託費が増額したため目標値を達成できず。

系統名	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	考察及び事業の今後の改善点
長寿線 (幹線)	長寿線は、東浦町と大府市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。	2024年度目標値 利用者数 56,100人 2024年度実績値 利用者数 49,420人	路線再編により休日ダイヤを導入し、18便→休日16便としたため目標値に達しなかったと思われる。今後も引き続き「あいち健康プラザ」、「げんきの郷」といったおでかけ先などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。
刈谷線 (幹線)	刈谷線は、東浦町と刈谷市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。	2024年度目標値 利用者数 33,150人 2024年度実績値 利用者数 35,237人	路線再編により、18便→14便となったが、刈谷線（刈谷駅南口行）の第1便に間に合う各路線の設定や、乗継待機時間の短縮を行ったことから、便数が減少した後も刈谷線の需要が高く、目標値に達したと考えられる。刈谷豊田総合病院や刈谷駅へのアクセスの他、鉄道や他市町のコミュニティバスへの乗り換えが可能な点も周知し、利用促進に努めたい。
藤江線 (幹線)	藤江線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。	2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人	路線再編により新設した路線。今後も「乗り方教室」等のイベントを積極的に実施し、その中で、「う・ら・ら」が藤江線で名鉄巽ヶ丘駅に新たに乗り入れたことなどを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

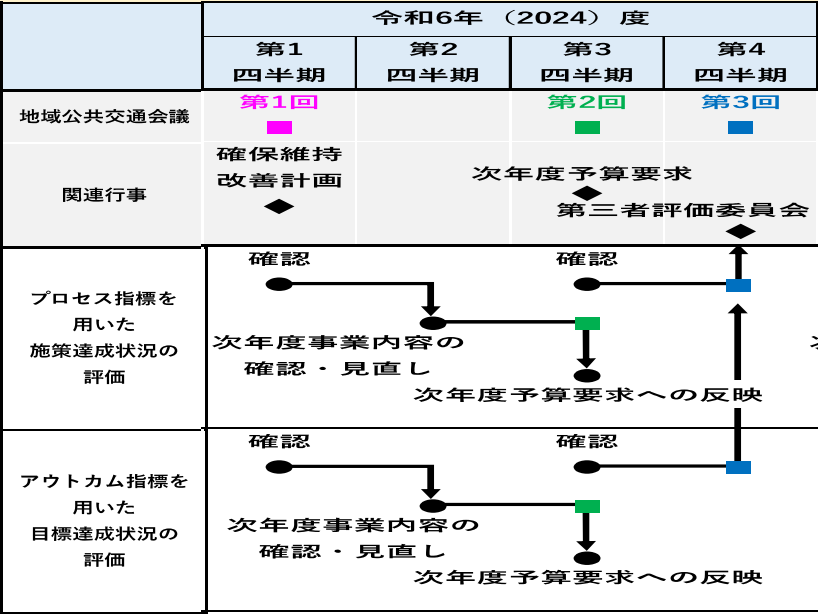
系統名	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	考察及び事業の今後の改善点
新田線 (幹線)	新田線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動での移動手段を担う。	2024年度目標値 利用者数 81,600人 2024年度実績値 利用者数 69,845人	路線再編により新設した路線。路線再編前に目標値を設定したが、路線再編によって実績値との間に大きな差が生じた。今後も「乗り方教室」等のイベントを積極的に実施し、その中で、「う・ら・ら」が新田線で名鉄巽ヶ丘駅及び知北平和公園に新たに乗り入れたことなどを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。
藤江線② (フィーダー)	藤江線②は、主系統を補完するとともに、新田線その他の系統に接続し、これらに乗り継ぐための役割を担う。	2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人	路線再編前に地域でニーズ調査をしたところ、主に藤江・生路地区で、名鉄巽ヶ丘駅へのアクセスの確保を希望する声が多かった。路線再編によりニーズに対応した路線となったため、目標値に達したと考える。

目標	達成状況を踏まえた今後の取組方針
目標2 公共交通利用者数・ 利用台数の増加	- 公共交通の利用方法の周知や利用促進を目的とした「公共交通パンフレットの作成」については、2024年度末に2024年10月の路線再編の内容を反映した第二版を発行。本紙で「う・ら・ら」のほか、近隣の行政バス、民間バス・タクシーの乗り方を紹介したほか、おでかけスポットなども掲載した。また、公共交通に関心を持っていただくきっかけづくりとして、町広報紙にも、おでかけプランを提案しており、今後も積極的に「う・ら・ら」をはじめとした公共交通の利用を提案していきたい。 2024年10月に路線再編を実施しており、2025年10月以降の利用者数は前年同月と比較すると増加傾向にあるため、利用が定着した方に向けても、今後はおでかけスポットに実際に公共交通を利用して行く「乗り継ぎ旅」などを実施することで、積極的に利用促進を図る。 2024年度に路線改正と利便増進計画の策定を行い、ニーズ調査で把握した課題に対応したダイヤを設定することで、総合的な利便性の向上を図ったため、「う・ら・ら」が便利になった部分を積極的に周知していきたい。 2022年10月から、民間バス・タクシーの利用促進を目的に「回数券の共通利用」を開始した。回数券の利用枚数は、2025年3月末現在で、知多バスで440枚、タクシー事業者で1,150枚だった。引き続き、乗り方教室の際などに周知活動を実施し、民間バス・タクシーの利用促進に努める。
目標11 「う・ら・ら」収支率の向上	「地域に出向いた乗り方勉強会の開催」については、2024年10月のダイヤ改正に伴う変更点を伝え、より多くの方に利用していただけるよう工夫する。 - 人件費や燃料費等の高騰から「う・ら・ら」の委託費の増額が続いている。利用者数の状況を見ながら、運賃改定を検討する。 2024年10月以降交通系ICカード決済を導入したため、ICカードの利用状況から乗降データを分析することで、利用促進に努める。 - 有料広告の事業を積極的に宣伝する。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	・「う・ら・ら」の路線・ダイヤや改変後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋がることを期待します。	利用者数の推移は日ごろから確認しており、乗り方教室等の機会に利用者の声を把握するようにしている。これらの情報から、より利便性の高い公共交通網の構築に繋がるよう、分析している。	引き続き利用状況の確認及び分析を継続する。
	「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組まれることを期待します。	「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を継続して実施している。	引き続き公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を継続して実施する。
前々回			

※前回：2025年3月25日、前々回：○年○月○日

東浦町地域公共交通計画の実施スケジュール



地域公共交通会議開催状況

	開催日	主な議題
2024年度第1回	2024年5月21日	「う・ら・ら」年度別利用状況及び乗車人数 「う・ら・ら」2023年度事業報告及び決算報告
2024年度第2回	2024年12月20日	「う・ら・ら」ダイヤ改正後の利用状況及び乗車人数 - 地域公共交通計画の評価 - 東浦町地域公共交通会議設置要綱の改正について
2024年度第3回	2025年3月25日	2025年度東浦町地域公共交通会議予算及び2025年度東浦町地域公共交通会議事業計画 「う・ら・ら」利用者数累計達成イベントについて
2025年度第1回	2025年5月23日	「う・ら・ら」年度別利用状況及び乗車人数 「R8事業年度地域公共交通計画（フィーダー系統確保維持事業）の認定申請について」及び「R8事業年度地域公共交通計画（地域間幹線系統確保維持事業）の認定申請について」

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 東浦町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実施され たかを記載。計画どおり実施され なかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
知多乗合株式会社	長寿線 車両減価償却費等に係る国庫補助金 の交付申請予定		A 「う・ら・ら」長寿線は、東浦町と大府 市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤 通学、買物、通院等の日常生活の移 動手段として利用されている。起点 の緒川駅東口のバス停においてJR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線 及び知多バス「刈谷中部空港線」へ の乗り継ぎ、げんきの郷・あいち健康 プラザ・長寿医療研究センターのバ ス停において大府市ふれあいバス及 び知多バス「大府線」への乗り継ぎが 可能になっており、公共交通ネット ワークを構築する上で特に重要な役 割を担った。	B 2024年度目標値 利用者数 56,100人 2024年度実績値 利用者数 49,420人 目標を達成できなかった理由 路線再編によって減便したが、 そのことによって利用者数が一 定数減少したと思われる。 ・輸送量 当該年度計画 15.5人 当該年度実績 10.6人 平均乗車密度 1.3人 運行回数 3,025回 ・収支率 当該年度計画 10.64% 当該年度実績 9.24%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利 用状況や利用者の声を把握し、必要に 応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続 的に実施し、より利便性の高い公共交 通網の構築に繋げる。また、「乗り方教 室」の実施や「公共交通パンフレット」 の配付等、公共交通の啓発と利用促 進に繋がる施策を、地域と連携して継 続的に取り組む。今後も引き続き、協 議会関係者が連携し、「乗り方教室」を 積極的に実施するとともに、「時刻表」 も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用 することによりおでかけができる場所な どを周知し、利用者への啓発と利用促 進に努めたい。
知多乗合株式会社	刈谷線 車両減価償却費等に係る国庫補助金 の交付申請予定		A 「う・ら・ら」刈谷線は、東浦町と刈谷 市の拠点間を結ぶ路線であり、通勤 通学、買物、通院等の日常生活の移 動手段として利用されている。起点 の緒川駅東口のバス停においてJR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知 多バス「刈谷中部空港線」への乗り 継ぎ、刈谷豊田総合病院のバス停に おいてへ刈谷市公共施設連絡バス 「かりまる」及び高浜市内循環バス 「いきいき号」の乗り継ぎ、終点の刈 谷駅南口のバス停において JR 東海 道本線、名鉄三河線及び刈谷市公 共施設連絡バス「かりまる」への乗り 継ぎが可能になっており、公共交通 ネットワークを構築する上で特に重要 な役割を担った。	A 2024年度目標値 利用者数 33,150人 2024年度実績値 利用者数 35,237人 ・輸送量 当該年度計画 17.9人 当該年度実績 14.4人 平均乗車密度 2.1人 運行回数 2,541回 ・収支率 当該年度計画 11.80% 当該年度実績 10.08%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利 用状況や利用者の声を把握し、必要に 応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続 的に実施し、より利便性の高い公共交 通網の構築に繋げる。また、「乗り方教 室」の実施や「公共交通パンフレット」 の配付等、公共交通の啓発と利用促 進に繋がる施策を、地域と連携して継 続的に取り組む。今後も引き続き、協 議会関係者が連携し、「乗り方教室」を 積極的に実施するとともに、「時刻表」 も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用 することによりおでかけができる場所な どを周知し、利用者への啓発と利用促 進に努めたい。

知多乗合株式会社	藤江線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定		A	「う・ら・ら」藤江線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活の移動手段を担う。起点の緒川駅東口のバス停において JR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、終点の巽ヶ丘駅のバス停において名鉄河和線、知多バス東ヶ丘団地線、知多市コミュニティ交通あいあいバス及び阿久比町循環バス「アグピー号」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。	A	2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人 ・輸送量 当該年度計画 29.7人 当該年度実績 19.2人 平均乗車密度 3.1人 運行回数 2,299回 ・収支率 当該年度計画 14.49% 当該年度実績 10.19%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改变後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。 特に、路線再編により新たに巽ヶ丘駅に乗り入れたことで、利便性が高まったことを周知したい。 また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。
知多乗合株式会社	新田線 車両減価償却費等に係る国庫補助金の交付申請予定		A	「う・ら・ら」新田線は、東浦町と知多市・阿久比町の拠点間を結ぶ路線であり、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動での移動手段を担う。起点の緒川駅東口のバス停において JR 武豊線、「う・ら・ら」の他路線及び知多バス「刈谷中部空港線」への乗り継ぎ、経由地の知北平和公園のバス停において大府市ふれあいバス及び東海市内循環バスらんらんバスへの乗り継ぎ、終点の巽ヶ丘駅のバス停において名鉄河和線、知多市コミュニティ交通あいあいバス及び阿久比町循環バス「アグピー号」への乗り継ぎが可能になっており、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担った。	B	2024年度目標値 利用者数 81,600人 2024年度実績値 利用者数 69,845人 目標を達成できなかった理由 路線再編前に目標値を設定したが、路線再編によって実績値との間に大きな差が生じた。今後の実績値に応じて最終目標値の改定を視野に入れる。 ・輸送量 当該年度計画 30.8人 当該年度実績 15.8人 平均乗車密度 1.8人 運行回数 3,140回 ・収支率 当該年度計画 17.74% 当該年度実績 7.94%	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改变後の利用状況や利用者の声を把握し、必要に応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続的に実施し、より利便性の高い公共交通網の構築に繋げる。 特に、路線再編により新たに巽ヶ丘駅や知北平和公園に乗り入れたことで、利便性が高まったことを周知したい。 また、「乗り方教室」の実施や「公共交通パンフレット」の配付等、公共交通の啓発と利用促進に繋がる施策を、地域と連携して継続的に取り組む。今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月15日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	東浦町においては、名古屋市へ通じる広域幹線である鉄道(JR武豊線・名鉄河和線)を軸に、町内から大府市及び刈谷市等の近隣市町までを広範に路線バス(知多バス「大府線」、「大府循環線」、「東ヶ丘団地線」、コミュニティバス(東浦町運行バス「う・ら・ら」)によって構成される公共交通機関網が広がっている。 これらの公共交通については、大府市及び刈谷市の総合病院、名鉄異ヶ丘駅等が当町民の日常生活機能を担う中で、東浦町運行バス「う・ら・ら」の長寿線、刈谷線、藤江線及び新田線等の地域内幹線が近隣市町に向かう数少ない手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。 しかしながら、人口減少と自家用車の普及等により、当町の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。 また一部地域では、午前8時台に緒川駅方面に向かう便がなかったり、地域内幹線間の乗り継ぎが不十分であったり、住民に不便を強いている状況にある。 このため、地域公共交通確保維持事業により、東浦町運行バス「う・ら・ら」の「長寿線」、「刈谷線」、「藤江線」、「新田線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月15日

協議会名: 東浦町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
知多乗合株式会社	藤江線		A 「う・ら・ら」藤江線は、東浦町と 知多市・阿久比町の拠点間を結 ぶ路線であり、通勤通学、買物、 通院等の日常生活の移動手段 を担う。起点の緒川駅東口のバ ス停においてJR武豊線、「う・ら・ ら」の他路線及び知多バス「刈谷 中部空港線」への乗り継ぎ、終 点の巽ヶ丘駅のバス停において 名鉄河和線、知多バス東ヶ丘団 地線、知多市コミュニティ交通 あ いあいバス及び阿久比町循環バ ス「アグビー号」への乗り継ぎが 可能になっており、公共交通ネッ トワークを構築する上で特に重 要な役割を担った。 また、「う・ら・ら」藤江線の一部 系統は、主系統を補完するととも に、新田線その他の系統に接続 し、これらに乗り継ぐための役割 を果たした。	A 2024年度目標値 利用者数 73,950人 2024年度実績値 利用者数 76,028人	「う・ら・ら」の路線・ダイヤ改変後の利 用状況や利用者の声を把握し、必要に 応じ適宜見直しを行う等、PDCAを継続 的に実施し、より利便性の高い公共交 通網の構築に繋げる。また、「乗り方教 室」の実施や「公共交通パンフレット」 の配付等、公共交通の啓発と利用促 進に繋がる施策を、地域と連携して継 続的に取り組む。今後も引き続き、協 議会関係者が連携し、「乗り方教室」を 積極的に実施するとともに、「時刻表」 も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用 することによりおでかけができる場所な どを周知し、利用者への啓発と利用促 進に努めたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月15日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	東浦町においては、名古屋市へ通じる広域幹線である鉄道(JR武豊線・名鉄河和線)を軸に、町内から大府市及び刈谷市等の近隣市町までを広範に路線バス(知多バス「大府線」、「大府循環線」、「東ヶ丘団地線」、コミュニティバス(東浦町運行バス「う・ら・ら」)によって構成される公共交通機関網が広がっている。 これらの公共交通については、大府市及び刈谷市の総合病院、名鉄巽ヶ丘駅等が当町民の日常生活機能を担う中で、東浦町運行バス「う・ら・ら」の長寿線、刈谷線、藤江線及び新田線等の地域内幹線が近隣市町に向かう数少ない手段として、車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。 また、この地域内幹線に通じる東浦町運行バス「う・ら・ら」の藤江線(東浦駅～巽ヶ丘駅)が支線の役割を果たしている。 しかしながら、人口減少と自家用車の普及等により、当町の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、運行に様々な問題が発生している。 また一部地域では、午前8時台に緒川駅方面に向かう便がなかったり、地域内幹線間の乗り継ぎが不十分であったり、住民に不便を強いている状況にある。 このため、地域公共交通確保維持事業により、東浦町運行バス「う・ら・ら」の「藤江線」を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和8年1月15日

協議会名: 東浦町地域公共交通会議

①事業の結果概要	④事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
【事業内容】 ・「乗り方教室」の開催。子どもや高齢者を中心に、保育園や地域の高齢者サロン等で時刻表の読み方やバスの乗り方に関する勉強会を行う。この際に実車を用いて、乗務員から運賃の支払い方や乗車時のマナー等を学ぶ。 ・「時刻表」の作成。「時刻表」には、①路線ごとの運行時間帯②路線図③バスの乗り方の説明④ご利用案内(運賃、定期券・回数券の案内、運行日等)を掲載する。 【結果概要】 ・2025年度は、7月25日に社会福祉協議会及びバス車庫ナイトツアーで「乗り方教室」を実施した。また、11月8日には、産業まつりにてブースを設けて「乗り方教室」を実施し、参加者には啓発用ステッカーを配布した。	A	・「乗り方教室」については、予定通り事業を実施している。7月25日に社会福祉協議会及びバス車庫ナイトツアーで「乗り方教室」を実施。 - また、11月8日には、産業まつりにてブースを設けて「乗り方教室」を実施し、「う・ら・ら」車両を用い、試乗していただいた来場者に、乗り方やICカード読み取り機の使用方法を案内するとともに、参加者には啓発用ステッカーを配布した。今後も「う・ら・ら」を身近に感じていただけるよう、車両を用いた「乗り方教室」を実施していく。 ・「時刻表」については、2026年3月までに発行できるよう、現在作成中である。	2024年10月のダイヤ改正により、「う・ら・ら」は名鉄翼ヶ丘駅や知北平和公園に新たに乗り入れを行い、運賃支払い方法としてICカードを導入した。また、緒川駅東口からの最終便の発車時間を延長した。 「乗り方教室」の際、名鉄翼ヶ丘駅への乗り入れのについては認知している方が多く、便利になったとの声をいただいたが、知北平和公園への乗り入れについてはあまり認知している方がいなかった。また、ICカードを所持している方が多く見受けられ、「う・ら・ら」でICカードで運賃を支払う方が徐々に増加している。「時刻表」の作成にあたっては、上記を踏まえ、「う・ら・ら」が便利になったポイントが利用者に伝わるように工夫したい。 今後も引き続き、協議会関係者が連携し、「乗り方教室」を積極的に実施するとともに、「時刻表」も活用し「う・ら・ら」の利用方法や利用することによりおでかけができる場所などを周知し、利用者への啓発と利用促進に努めたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月15日

協議会名:	東浦町地域公共交通会議
評価対象事業名:	利便増進計画推進事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	地域公共交通が担うべき役割は、移動制約者(高齢者・障がい者・妊産婦・子ども等)の移動手段を確保することはもとより、外出したくなる仕掛けづくりによる交流の活発化、まちのにぎわいの創出、高齢者の運転免許自主返納促進への協力、さらに健康増進、コンパクトシティの実現、脱炭素社会への対応といった町の政策への貢献等、多面的なものが求められている。コンパクトなまちづくりとして、町運行バス「う・ら・ら」の充実などを図り、JRや名鉄の鉄道駅やバス停周辺を中心に、住む人や働く人が移動しやすく暮らしやすいまちづくりを進めることとしている。 そこで当会議では、移動しやすく交流できるまちを目指して、公共交通の利便性向上を図ることとし、2024年度に、「東浦町地域公共交通利便増進実施計画」を策定、2024年10月の「う・ら・ら」の大幅な路線とダイヤの見直しを実施するとともに、名鉄翼ヶ丘駅や知北平和公園への乗り入れ、ICカードの導入などを開始した。 また、地域の方に「う・ら・ら」に親しみをもってもらい、より便利に利用してもらうため、地域公共交通利便増進事業に関連して実施する事業として「う・ら・ら」の回数券を民間バス、タクシーで金券として利用できる共通利用の実施、「う・ら・ら」の他路線へ無料で乗り継ぐことができる乗継券の発行、バスロケーションシステムによる運行状況の発信等を進めることとしており、2025年度は、利便増進計画推進事業として、路線再編等を反映した「時刻表」を積極的に配布するとともに、「う・ら・ら」の「乗り方教室」を開催することとしている。